

Nordic Market Biweekly Report

情報提供資料

北欧市場ニュース～北欧投資の魅力と最新情報を隔週でお届けします

2015年7月14日

★為替・金利の動向

対円レート推移
(2015年6月26日～2015年7月10日) ※単位は円

	6月26日	7月3日	7月10日	期間中騰落率
ノルウェー・クローネ	15.82	15.34	15.32	-3.2%
スウェーデン・クローナ	14.93	14.53	14.58	-2.3%
デンマーク・クローネ	18.54	18.29	18.36	-1.0%
ユーロ(フィンランド)	138.31	136.43	136.92	-1.0%

北欧4か国通貨はいずれも対円で下落しました。ギリシャ支援を巡る交渉が決裂し、財政緊縮策への賛否を問うギリシャ国民投票の結果は、“緊縮策の拒否”となりました。ユーロの先行き不透明感が高まったことで、為替市場ではリスク回避を目的とした円買いの動きが優勢となり、ほぼ全ての主要国通貨に対し円は上昇しました。

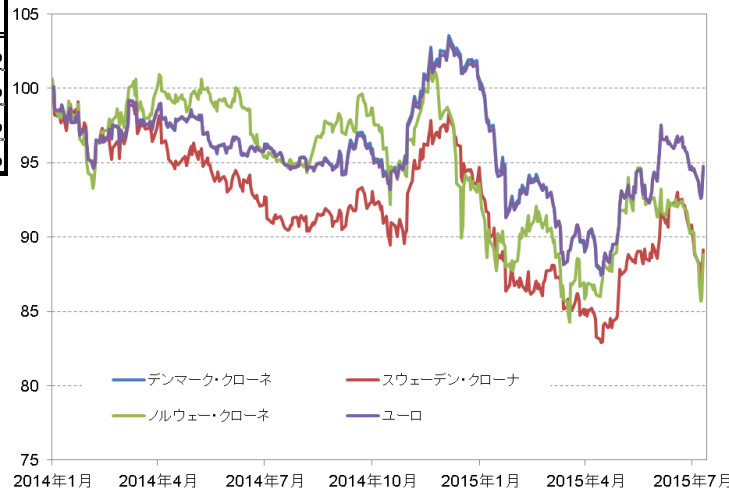
また、ユーロ安スウェーデン・クローナ高に伴う自国経済への悪影響を警戒したスウェーデン中央銀行が、2日に追加利下げを実施したことも、スウェーデン・クローナの下落要因となりました。

銀行間取引金利3ヵ月物推移
(2015年6月26日～2015年7月10日) ※単位は%

	6月26日	7月3日	7月10日	変動幅
ノルウェー	1.310	1.300	1.270	-0.040
スウェーデン	-0.200	-0.280	-0.247	-0.047
デンマーク	-0.200	-0.170	-0.178	0.022
ユーロ圏(フィンランド)	-0.015	-0.015	-0.018	-0.003

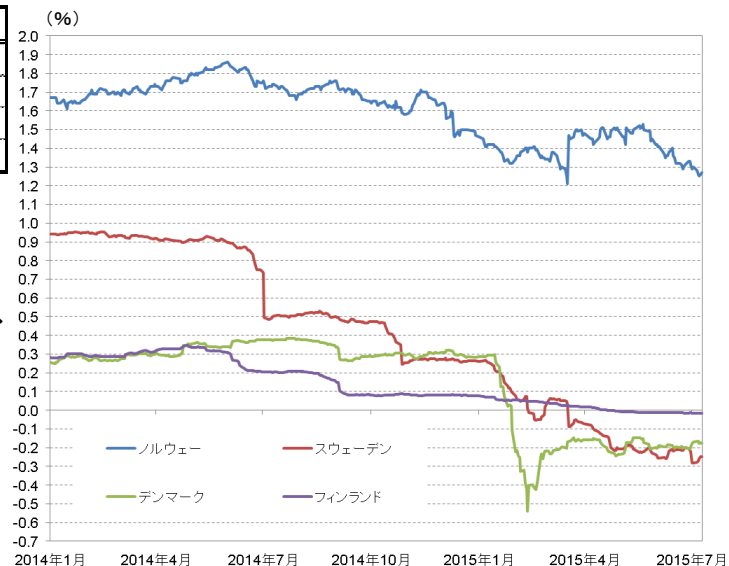
北欧4か国の銀行間取引金利は、ノルウェー及びスウェーデンで比較的大きく低下しました。6月27日にギリシャが債権団との交渉を打ち切り、緊縮策の是非について国民投票を実施することを明らかにしたことで、先行きの不透明感が高まったユーロは、対主要国通貨で下落しました。これに対して、自国通貨高を警戒したスウェーデン中央銀行が、予想外の追加利下げを実施したことに加え、ノルウェー市場でも追加金融緩和策の導入観測が強まったことが、ノルウェー及びスウェーデンにおける銀行間取引金利の低下要因となりました。

対円レート推移
(2014年1月1日～2015年7月10日)
※2013年末を100として指数化



出所:ブルームバーグデータをもとに
BNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社作成

銀行間取引金利3ヵ月物推移
(2014年1月2日～2015年7月10日)



出所:ブルームバーグデータをもとにBNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社作成

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、2015年7月に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

☆北欧ニュース

＜ノルウェー： 2015年上期の水産物輸出額は史上最高額を更新＞

ノルウェーの2015年上期の水産物輸出額は、前年比5%増加の340億ノルウェー・クローネに達し、史上最高額を更新しました。ノルウェー・サーモンの6月輸出総額が前年比で3%上昇したことに加え、タラ加工品の販売が国内外ともに伸びたことも、輸出最高額の更新につながりました。

＜ノルウェー： ノルウェー統計局、失業率は2016年にピークを打つと予想＞

ノルウェーのエネルギー・セクターにおける開発投資の落ち込みは、同国の労働市場に暗い影を落としており、失業率は2014年3月の3.3%から、2015年4月の4.1%まで上昇しました。ノルウェー統計局は、エネルギー・セクターの不振は当面の間継続するとしながらも、非エネルギー・セクターや公的部門における投資回復の動きが労働市場の悪化に歯止めをかけるとの見通しのもと、失業率は2016年中にピークを打つと見込んでいます。

＜デンマーク： 乳製品大手のArla社、ギリシャ事業の見通しに言及＞

デンマーク乳製品大手Arla社は、ギリシャがユーロ圏から離脱した場合の、同社業績への見通しを明らかにしました。同社は既にギリシャ国内での投資の大部分を引き上げており、現在は乳製品の販売に専念しています。ギリシャがユーロ圏を離脱した場合は、同社の年間3,000万～4,000万ユーロに上るギリシャ国内の売り上げは半減すると予測しており、既にギリシャ国内の在庫圧縮を図っています。

＜スウェーデン： スウェーデン中央銀行、政策金利をマイナス0.35%へ利下げ＞

スウェーデン中央銀行は7月2日、2015年3月以来となる利下げを行い、同国の政策金利はマイナス0.35%となりました。4月時点では、スウェーデン中央銀行は3月の利下げの効果を認め、追加利下げを念頭に置いていないことを示唆していたことから、市場では、今回の利下げはギリシャ問題を背景としたユーロ安(スウェーデン・クローナ高)に対応したものとの見方が大勢を占めています。

出所：各種資料をもとにBNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社作成

* 文中に登場する企業名等は情報提供のためのものであり、当社が特定の有価証券等の取得勧誘を行うものではありません。



BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第378号

加入協会 一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

【本資料に関するご留意事項】

本資料は、BNPパリバ インベストメント・パートナーズ株式会社(当社)が、2015年7月に作成したものです。特定の金融商品の取得勧誘を目的としたものではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の情報は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。